

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600027		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家 揖斐		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町島291-1		
自己評価作成日	平成23年6月28日	評価結果市町村受理日	平成23年8月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2192600027&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数で、利用者様一人一人の生活リズムに合わせたケアが行えるというグループホームの利点を活かして、個々の認知症状に合わせた支援をしております。利用者様＝お客様という観点から、接遇に力を入れて取り組んでおり、施設内外の研修にも積極的に参加しております。また、職員が楽しんで仕事をする事で、利用者様のケアもより良くなるという考えから、管理者は職員が働きやすく、楽しく仕事を行えるように職場環境を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、揖斐川の左岸に位置し、対岸の向こうには、池田山が連なって見えている。利用者には、馴染みの情景を見ながら、自分のリズムで、心穏かに暮らしている。ホーム敷地内の畑では、利用者と一緒に野菜をつくり、収穫した旬の野菜が食卓に上っている。畑作りなどでの作業療法をはじめ、音楽療法、回想法、アニマルセラピー(動物療法)等を楽しみながら症状の緩和に効果を上げている。管理者・職員は、利用者本位のケアを行うために、接遇に力を入れて取り組んでいる。さらに、利用者と同じ時間を、共に過ごせることに感謝しながら、楽しく働きやすい職場環境を作り上げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を施設内に掲示し、職員が常に意識できるようにしている。また、年度初めには運営理念について研修を行い、理念の意味を深く考える機会を設けている。	地域の人々と親密に交流しながら、利用者の権利を尊重した介護の提供を含め、5項目の理念を掲げている。理念は、新人研修や定例会議で周知・共有し、自分らしく、心穏かに、笑顔のある暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事や奉仕活動、公民館の福祉フェア等に利用者様と参加したり、近所のご夫婦に畑を作っていたいでいる。また、夏の行事として町の花火大会に合わせて夏祭りを行い、地域の方にも開放している。	地域の清掃活動や公民館活動の案内が区から届けられ、積極的に参加している。ホームの行事には、近隣の人々や子ども達を招き、盛大に行っている。畑作業や各ボランティアの人達とも日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談ができるように看板に表示したり、区長や民生員の方にもお知らせしている。また、職員が受講した認知症の研修資料のまとめを配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、高齢福祉課の職員、区長、民生員に参加していただき、現状のケアについて話し合い意見をいただいている。また、地域の報告や、行政関係の報告もしていただき、広い視野でサービスの向上につなげている。	会議は、行政・区長・民生委員の参加を得て、2ヶ月ごとに開催されている。ホームの現状報告と、参加者からの課題提供や行政からの最新情報を受けて討議し、サービスの向上に活かしている。	会議には、家族の出席が少ないので、対応を検討している。家族が参加しやすい会議の運営に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターが行っている「職員連絡会」に管理者が副会長として所属し、連携をとっている。また、ケアについての相談をしたり、現状を報告している。月1回、高齢福祉課主催のケア会議にも参加している。	地域包括支援センター主催の「職員連絡会」に定期的に参加し、職員の専門性を高めている。また、民生委員も出席する高齢福祉課主催の「ケア会議」に毎月参加し、ケアの現状を報告し、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を、外部の研修や全体会議で定期的に行い、理解を深めている。緊急やむを得ない場合には、管理者はご本人、ご家族に説明を行い、慎重に行っている。	身体拘束に関する内外の研修で、周知・徹底し、拘束のないケアを実践している。やむを得ない状況が生じた場合の対処等は明文化され、確認書を整えている。玄関は、常に開放されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修を、外部の研修や全体会議で定期的に行い、理解を深めている。職員がお互いストレスがないかを気軽に話し合える雰囲気作りにも努め、防止している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に積極的に参加して、職員全員で学ぶ機会を持っている。特に成年後見人制度は、必要と思われる場合にはご家族に活用を勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、文章の読み合わせを行い十分に説明している。理解、納得されているか確認をし、疑問点はいつでも連絡して下さるように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の外部評価時のご家族アンケート結果を、職員全員で話し合い、ケアの向上に活かしている。また、それを掲示したり運営推進委員会でも報告している。日常の利用者様の要望については、担当者が全体会議で報告することで対応している。	家族の訪問時や面会の際に、意見を聞いている。利用者の身だしなみや職員の言葉づかい等の指摘がある。意見は、「苦情・要望・相談」の書式に記録し、管理者・主任会議で検討して速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員全体会議には、施設長、管理者も出席し意見、相談、提案を聞いている。また、2ヶ月に一回各施設の管理者、主任、ケアマネージャが集まり、意見交換をして運営に反映させている。	管理者は、毎月の全体会議で職員から意見を聞いている。勤務調整・看護師の巡回要請、やりがいのある職場づくりなどが話し合われている。意見・提案等は、幹部会議で検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の、経験や性格、勤務時間の希望を考慮して、やりがいのあるポジショニングを考えている。また、子育て中や定年した職員も生き生きと働けるように、積極的に採用し勤務時間にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現状維持に留まらないように、職員に実績と実力にあった研修を積極的に受けてもらっている。また、施設内でもスキルアップ研修を毎月設け、全員が知識を高められるように工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者やケアマネージャ、職員に外部の研修や会議、交流会に積極的に参加してもらい、同業者の意見を聞く機会を設けている。また、管理者は町の主催する連絡会に副会長として就任し他の事業所と連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に利用者様の心身状態を把握したうえで、ご本人、ご家族が納得できるまでアセスメントを詳細に作成するように努めている。また、個々に認知症の症状が異なる為、これからのサービスが安全、安心に行われるように検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問や見学に来ていただき、現在の不安、悩み、要望を時間を十分とり伺っている。アセスメントを中心に話し合い、より良い介護計画をたてられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望、現在の段階で必要なサービスを話し合っている。必要であれば、他の関係機関を紹介したり、主治医の意見を聞きながら、サービスの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場となる施設の中で、家事の役割などできる範囲で行っていただき、生活を共にしている。利用者様に教えられることも多く、喜びを実感したり、汗を流し笑顔をかわしながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に近況報告書を郵送し、面会に来られない方にも普段の様子を知っていただくように工夫している。また、面会時や電話で要望、相談、ご家族の目線での気づきを伺い、共に支援して関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の要望があれば、ご家族の承諾のもと、近隣の友人や遠い親戚に連絡をして面会に来ていただいている。また、親しい方に年賀状を作成したり、地域の祭りや食堂に行ったりして関係が途切れないようにしている。	馴染みの知人・友人の訪問があり、面談室でゆっくり過ごしている。近隣の人やボランティアの人とも、馴染みの関係づくりを支援している。行きつけのスーパー・コンビニエンスストア・本屋・電気店・寺などへも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の、生活歴、性格、要望を把握し心地よいコミュニケーションが出来るようにテーブル席や部屋の配置に工夫している。時には、職員が入って、円滑に会話が弾むようにしている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の現状を介護サマリーに記録し、性格、リスク等その後よい支援が受けられるように情報提供している。また、サービス終了後も相談に応じたり、経過を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成時にご本人にその都度、要望を聞き、またご家族にも意向書に記入していただいている。日常会話にでてくる希望も、全体会議で把握し、希望に添えるように話し合いをおこなっている。	日常会話や、暮らしの中で発する「声」を大切にしている。全く聴こえない人もいるが、表情から思いを汲み取っている。把握した思いや意向は、全体会議で周知し、暮らしに反映できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、主治医、関係機関の情報をもとに、これまでの人生の道のりや生活環境等を把握しアセスメントに記入している。それを活用し、その人らしい生活が送れるように参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの、生活リズムや既往歴、認知症状を主治医や関係機関の情報提供で把握するように努めている。ご本人、ご家族からは会話の中から情報をいただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際に、必ずご本人、ご家族の意向を聞き、各担当者と話し合い作成している。また、原案をご本人、ご家族、担当者と再度確認している。途中で心身状況が変わった場合は再度、見直している。	介護計画は、担当者のモニタリング結果を踏まえ、本人・家族と話し合い、作成している。遠方の家族には書類を送り、同意を得ている。心身の状況変化に応じ、随時、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護日誌をつけて一日の様子や心身状態を記録し、情報を共有している。出来ることや出来ないこと、出来る可能性があることの把握に努めている。また、毎日ケアプランの目標がなされているか記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、ニーズに対応できるように各職員が能力を発揮できる職場作りに努めている。柔道整復師によるリハビリや、ピアノ教師による音楽療法、栄養士による食事療法等多様に、柔軟に対応している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(病院、公民館、お寺、スーパー等)を考えて、それを利用して生き生きと暮らしていけるよう支援している。地域とつながっていけるように、清掃活動やお祭りに利用者様と一緒に参加している。また、夏祭りには地域の方の参加を呼び掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の希望を聞き、馴染みのかかりつけ医を継続していただいている。体調変化時には、文章で日常の様子を報告したりして連携をとり、適切な医療が受けられるように支援している。受診は原則ご家族にお願いし、希望により有料で対応している。	利用前からのかかりつけ医と協力医とで、かかりつけ医を個々に選択している。月に2回、協力医の往診があり、希望者が受診している。それぞれのかかりつけ医と連携を密にとり、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化時や気付き等は、ぬくもりの家大野に在中している看護師に相談している。また、主治医に連絡し迅速に対応できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、必ず介護サマリーを提供している。途中経過もご家族や担当看護師と情報交換してできるだけ退院後も受け入れられるように努めている。また、年1、2回行われる共同会議にも出席して、意見交換し関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や、重度化する恐れがある場合にはご本人やご家族と話し合いを行っている。希望を聞き、できることを説明して、主治医と連携を取りながら終末期の対応を行っている。また、点滴等が必要であれば、ぬくもりの家大野へ移動もお願いしている。	重度化・終末期の方針は、契約時に家族に説明し、書類で同意を交わしている。協力医と連携を取りながら段階的に話し合うことも定めている。点滴等の終末期医療が必要な場合は、看護師が常勤している同法人経営のグループホームへの転居を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様のリスクをいつも念頭に置き、緊急時には対応できるように年2回看護師の指導のもと研修を行っている。また、連絡体制も見やすい場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち会いのもと年2回防災訓練を実地している。そのうち1回は夜間を想定しており、夜勤者全員が訓練をするようにしている。また、隣近所の方や区長、民生員に参加していただくように計画である。	消防署の指導の下、年に2回、防災訓練を行っている。そのうち1回は、夜間を想定した近くの公民館への避難誘導訓練を実施している。近隣からも協力が得られるように話し合いができており、住民や自治会役員が参加する訓練も予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様＝お客様という考えを常に持つように、管理者が全職員に教育している。プライバシーの確保と安全性の面から、各居室に小窓を設け安全確認できる仕組みになっている。また、施設内外で接遇に関する研修に積極的に参加している。	理念に掲げた権利の尊重を中心に、接遇研修で学び、高齢者を敬う言葉かけに努めている。馴れ合いになって、命令口調や否定的な言葉にならないように、全職員に利用者の人格を尊重した対応を意識するよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や衣類、レクや行事の選択など日常生活で、自己決定していただくように会話をしている。また、自己表現ができない方には、表情や行動から読み取るように努め、個人を尊重したケアに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	18名の個々の生活リズムに合わせて職員が支援するように努めている。食事や寝起き、趣味などをご本人のペースで行っていたるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容をして、季節にあった好みの服を選択していただき化粧をしたり、帽子をかぶったりとその方らしいおしゃれを支援している。ご自分できない方にも身だしなみが清潔に保てるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、利用者様に庭の畑の野菜を収穫していただき、食事を作っている。それによって、会話が弾み楽しみながら食事をしていただいている。また、好み合わない献立の場合も、個々に対応して別メニューを提供している。	利用者の嗜好や体調に気配りし、栄養士や調理師が食事作りを主導している。庭の畑と一緒に収穫した野菜を用いた料理と、洋風料理の取り合わせが喜ばれ、人気のメニューとなっている。職員も同じ食事を摂り、片付けも一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や調理師が連携して、体調に合わせてカロリーを計算して献立を作っている。また、食事摂取量と水分量、排便等を記録し健康管理に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、一人ひとりの口腔ケアを行っている。義歯の手入れを忘れないように、声をかけている。また、馴染みの歯科衛生士に定期的に確認していただいている方もいる。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄の誘導を行い、なるべくトイレで排泄をしていただけるように支援している。夜間は、必要な方にはポータブルトイレを設置して、安全に排泄が自立し続けられるように支援している。	利用者の半数以上は排泄の自立度が高く、自立の継続に努めている。必要な人には、個別の排泄リズムやパターンを把握し、こまめに誘導しながら、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便の記録をつけて確認している。便秘の際は食事や水分量を見直したり、改善されなければ主治医に相談して薬を処方していただき対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を決めているが、入られない場合は別の日に入っていたり、体調に合わせてたりと個々に対応している。また、季節によって回数を増やしたりしている。入浴はゆっくりと一人ひとり入っていただくため、時間を十分に取るようにしている。	週に2回、昼の時間帯で入浴をしている。最初は入浴を渋る人もいるが、さり気なく誘導することで、自ら進んで入ってもらい、ゆったり時間を掛けて入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて、就寝や昼寝をしていただいている。なかなか寝付けない方には、話を聞いたり、温かい飲み物を提供したりして穏やかな気持ちで休めるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を確認するように努めている。体調が変化したり、改善した時は主治医に報告している。また、飲み忘れやがないように声かけをしながら服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や生活歴を考慮して、ガーデニングや畑仕事、犬の世話、洗濯等好きな事をしていただいている。また、近所への買い物や喫茶店等気分転換していただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望を聞きながら、スーパーや本屋、喫茶店と馴染みの場所へ出かけるようにしている。また、自宅を見に行きたい等、ご家族と協力してなるべく希望が叶うように努めている。	ホーム周辺には、寺を巡る散歩コースがあり、日常的に出かけている。また、敷地内の庭も広く、閉じこもりのないように、外気に触れたり、ペットの犬と触れ合っている。普段は行けない馴染みの場所には、家族と協力して支援している。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には、ご自分で買い物していただいたり、できない方には、小口資金としてお預かりして希望があればそれから使用して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をしたり手紙を出したりと個々に対応している。また、12月には全員の利用者様に年賀状を作成していただき、馴染みの方々とやり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の間には、自由に好きな場所でくつろいで頂けるように、幾つもテーブルやソファを設置している。また、不快な刺激を与えないように、照明を落として落ち着ける空間作りを工夫している。花や装飾品で季節を感じていただけるように配慮している。	玄関には、古い和箆笥や行灯風の照明、鉄瓶等がさり気なく配置され、落ち着いた空間となっている。廊下のところどころに、テーブルやソファを置き、花を添えて生活感を出すよう配慮している。利用者は、談話室やカラオケルームで思いおもいに過ごしている。窓越しには、池田山が広がり四季の風情が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士が、居心地よく一緒にいられるように、居室の配置をしたり、一人や少人数で落ち着いて過ごしていただけるように、家具を幾つかの場所に設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の前に、馴染みの家具や仏壇、小物等を持ってきていただくように話をしている。また、認知症状に合わせて安全に生活していただけるように、家具に配慮している。	居室には、馴染みの家具、位牌や仏壇、小物類が持ち込まれ、利用者の症状や生活歴に合わせて、居心地良く配置されている。テレビは各室に設備され、好きな番組を選んで楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の方が安心して暮らしていただけるように、居室、玄関、食堂の配列に配慮している。また車いすでも排泄が自立できるようにトイレの広さを十分にとったり、館内すべてバリアフリーにする等、身体が不自由でも活動的に生活できる。		